

平成30年2月

緑の学び舎

ニュースレター



府中市立四谷小学校



三鷹市立北野小学校



日野市立滝合小学校



国立市立国立第二小学校

特集

我が校の芝生、こんなところが自慢です。

- 芝生の専門家「ひとことアドバイス」
- 校庭芝生化地域連携事業の御案内
- あっぱれ！親方・匠



校庭芝生化地域連携事業の御案内

維持管理や芝生を活用した文化・スポーツ活動を支援します！

Q 地域連携事業とは？

学校と地域が連携して行う芝生の維持管理活動や芝生を活用した文化・スポーツ活動を通じて、子供たちの健やかな成長や地域の教育力を活性化することを目的とした事業です。

Q 事業の内容は？

以下の要件を満たした公立小中学校を対象に1校当たり30万円を上限に支援します。

- 学校と地域による「校庭芝生化推進協議会」の設置
【構成例】校長、教職員、PTA関係者、町会・自治会長、青少年育成委員 等
- 地域協力者の確保等のコーディネートを行うグリーンリーダーの配置

Q どのような活動に費用を使えますか？

維持管理活動

芝刈り、種まき・肥料まき、ポット苗補植など

- ・肥料など消耗品の購入
- ・軍手など用具の購入
- ・維持管理の講習会の材料費など

スポーツ活動

タグラグビー、校庭キャンプなど

- ・グローブ、ラインマーカーの購入など

文化活動

コンサート、野外映画会など

- ・イベント用機材レンタル代など

推進協議会の運営

- ・協議会委員や指導者への謝礼
- ・広報誌の印刷 など

地域連携事業を活用した学校の取組を紹介

府中市立四谷小学校 グリーンフェスティバル

児童数：610名（平成29年5月1日現在）
芝生化面積：3,026m²
芝生が完成した時期：平成24年度



濱田忠宏 校長先生

ーグリーンフェスティバルを始めるきっかけについて教えてください

芝生化した年が本校の創立40周年の年だったので、創立40周年と芝生化の完成を兼ねた記念行事の一環として始めました。第1回は150人くらいの参加者で次の年に参加人数が少なければそこで終わろうかと考えていたのですが、蓋を開けてみると2倍の300人。それがあって今に続いています。



キックターゲット

ー地域連携事業についてどう感じていますか？

このフェスティバルのように、学校の枠を超えた行事ができるのは地域連携事業のおかげだと思っています。芝生の維持管理以外に、フェスティバルで使う様々な道具類の購入なども、地域連携事業の支援でまかなっていて、それはすごく助かっています。

ーグリーンフェスティバルの主催はどちらですか？

主催は、四谷小グリーンプロジェクトです。会長は地域の野球チームの代表の方で、PTAやサッカーの団体のメンバー、学校の近くにお住まいの地域のボランティアの方によって成り立っています。四谷小グリーンプロジェクトは、芝生の維持管理、活用を目的に立ち上げた団体なので、例えば、1学期の終わりのポット苗の補植などにも、四谷小グリーンプロジェクトとして関わっていただいています。



エアロケット



リバー

ー今後の展望について教えてください

グリーンフェスティバルについては、本校の生徒だけではなく、その弟や妹に当たる小さい子供たちもたくさん参加してくれています。今後は地域のお年寄りの方などにも参加してもらえるようになれば嬉しいですね。芝生は現在とても良い状態にあるので、この状態を維持していくことが大切だと思っています。

我が校の芝生、こんなところが自慢です。

風通しの良い関係が生まれる緑の校庭

三鷹市立北野小学校



仲光 秀城 校長先生

芝生化して良かったこと、変わったことは

子供たちが芝生の上を思い切り走り回る姿を見るのは、とてもうれしく思っています。この数年、芝生の状態も地域の方とのコミュニケーションも年々良くなってきていると感じています。北野グリーンクラブという維持管理を行う団体があるのですが、参加いただいている地域の方やスポーツ団体の方、教職員などでメーリングリストを作成して折々の芝生の状態や、活動報告などをこまめに発信していただいています。皆さんが芝生を身近に感じていただくためのツールとして上手く機能していると思いますし、芝生に関わることで教職員や地域の方々の様々な触れ合いが生まれているようで、とても有り難いことだと思っています。



ユニークなエピソードはありますか

芝生に関わる人を親しみの湧くネーミングで呼ぶことにしています。芝刈りなど実際に身体を動かして芝生に関わる人は「芝レンジャー」、朝、芝生の状態を観察する人は「グリーンキーパー」といった具合です。どちらも当番制で、児童と教職員も一緒になって活動しています。なるべく楽しく作業が行えるように、例えば芝を刈った後の袋詰めをゲームにして競争したり、様々な工夫をしています。大人に対しても言えることですが、重い荷物はできるだけみんなで負担しようということで、なるべく一人当たりの負担が少なくなるように考えています。



「我が校の芝生」の自慢を教えてください

卒業式の最後に芝生の上に全員が集まって6年生を送り出しています。芝生の花道ですね。緑の校庭を見た時に是非やりたいと思ったのですが、保護者の方も含め大勢の人が一同に集まると芝生にダメージがあるかもしれないと、なかなか言い出せなかったんです。しかし「校庭芝生はみんなが使うためにあるのだからやりましょう。」という声に背中を押され、今ではやってみて本当に良かったと思っています。子供たちも様々な形で芝生に関わることで、芝生が自分たちの自慢の一つになっているようです。今は、学校と地域にとっても風通しの良い関係が育っています。それに比例するように芝生も非常に良い状態で推移しているので、これを長く続けることができるように頑張っていきたいと思っています。



児童数：562名（平成29年5月1日現在）
芝生化面積：2,590m²
芝生が完成した時期：平成21年度



芝生を活かした地域の新しい伝統を生み出すために

日野市立滝合小学校



福島 貴美江 校長先生

芝生化して良かったこと、変わったことは

まず、ケガが少なくなりました。それから、走りですね。芝生の上を走っている今の子供たちと以前の子供たちを比べると、走力は確実にアップしたように思います。芝生は土と比べると走りにくいのですが、そこで普段身体を動かしているの、普通のグラウンドでタイムを計測すると50mの記録が全体的に良くなっています。体力向上にはとても役立っていると思います。

地域全体で考えると、芝生管理委員会の方をはじめとして、スポーツ団体の方、保護者、地域の育成会の人たち、それぞれが本校に集まってきて整備してくれます。そこで学校を通した様々な人たちの交流が生まれています。このような場合は、校庭を芝生化しなければ生まれなかったかもしれませんね。



芝生化にまつわるエピソードはありますか

以前は、小正月の「どんど焼き」という行事が伝統的に校庭で行われていて地域の方が大勢参加されていました。この地域には子供たちが楽しめるお祭りが少なく、PTAの方が何か子供たちに残せるものをということで「どんど焼き」を始め、それがずっと続いてきたんですね。ところが、校庭を芝生化することでこの「どんど焼き」ができなくなってしまいました。それで、今年はそれに代わる行事としてたこ揚げ大会を企画しています。「どんど焼き」のメンバーの方が芝生化の大きな力になっていただいただけに複雑な思いもありますが、このような企画も芝生があるからできることなので、地域の方が芝生を通して学校とつながりを持ち続け、地域の新しい伝統行事になればと思っています。



「我が校の自慢」を教えてください

芝生化には沢山のメリットがありますが、何よりもこの緑に癒されるというのが大きいと感じています。本校は周りに山があり、近くに川が流れていて自然には恵まれています。もう一つこの校庭の芝生の緑が加わったことで、より緑あふれた学校になったと思います。

芝生化して6年経ちましたが生育の悪い年は「芝生再生プロジェクト」として苗の補植を行ったりしました。今年はかなり良い状態です。子供たちは普段から芝生の上を駆け回っていますので芝生は大好きです。大切にしたい思いは教職員や保護者の方も同じです。地域の方を含め、様々な人が同じ思いを持っていることは自慢と言ってよいかもしれませんね。



児童数：417名（平成29年5月1日現在）
芝生化面積：3,942m²
芝生が完成した時期：平成22年度



使う人、管理する人の気持ちが集約された芝生

国立市立国立第二小学校



小林 理人 校長先生

芝生化して良かったこと、変わったことは

休み時間に外に出て身体を動かす機会が増えたことは間違いないですね。雨が降っても水たまりができないので、校庭が使えないということがほとんどありません。子供たちは芝生の上での遊びを工夫して考えるし、ケガが少なくなる。そういった目に見える効果に加えて、芝生を通して地域の方々が一同に会って同じ作業をする、大人が子供たちのためにという目標の下に集まって芝生の維持管理ができるということ、これが大きいですね。学校だけでなく、地域のみんで子供の成長を支えようという機運が高まった、それが一番良かったことでしょうか。



印象に残るエピソードはありますか

牛乳パックを溶かしたものに枯れた芝をすき込んで作った紙を使って子供たちが教職員や地域の方に手紙を書いたんです。私がもらったこの手紙には「校長先生いつも芝の手入れをしてくれてありがとう。」って書いてあります。これは一例なんですが、大人たちによって芝生が手入れされている状態を見て、子供たちの中にも感謝の気持ちや物を大事にする気持ちが自然と育ってきているという気がするんですね。これも芝生の効果だと思います。



小林校長先生がもらった手紙



「我が校の自慢」を教えてください

とりあえず本校の芝生を見てください。今の芝生の状態を見ていただければ、私たちが普段からやっていることの一部が分かってもらえるんじゃないでしょうか。例えば維持管理についてはPTAの「芝生隊」や地域のボランティアの方など色々な方が関わっています。芝刈りが主な作業ですが、5月は週一回ずつ、6月になると週二回になりますし、夏休みは教職員がやります。また、芝生が伸び始める前にエアレーションを行います。とても多くの方に集まっていただいています。そういう普段の活動があって、誰が見に来ても「良い状態だね」と言ってくださる芝生が生まれた。そこには、様々な要素が全部詰まっているんですね。使う側の子供の気持ちや、子供のために集まってくれる保護者や教職員の気持ち、そういうものが全て集まってあの状態が維持できている、そのことが私たちの自慢ですね。



児童数：380名（平成29年5月1日現在）
芝生化面積：3,104m²
芝生が完成した時期：平成26年度



芝生の専門家「ひとことアドバイス」

都内の公立小中学校等から様々な相談を受けて、アドバイスや講習会を行っている芝生の専門家。これからの時期に多くの学校で行う「芝生の補修」についてお話を伺いました。

芝生の補修には以下の方法があります

- ポット苗
メリットは、苗として育ったものはほぼ確実に根付くという点です。皆で苗を育てるといって一体感も大きいですね。ただ、補植までの間、苗を育てるための日当たりの良い場所が必要です。苗を作り、育てる人手と時間の問題も見逃せません。
- 芝苗の植付け
ポット苗を育てる余裕がないときには有効な方法です。子供たちが芝生と関わる時間は少なくなりますが、人手や手間が掛かりません。補植後の生育は、根が出るまではたっぷり水やりが必要ですが、その後はポット苗に比べ遜色ありません。
- 種をまく
冬芝や雑草が生えている場所など、苗を植え付けることが難しい場合には、種をまく方法が有効です。作業自体は簡単で人手も掛かりませんが、まいた種が雨で流されるなどのリスクがあります。種から育った芝は、根の発育が十分ではないため、毎年続けて種をまく必要があります。

生育の時間を十分に確保するため、芝生の生育に適した気温になったら、早めに補修することを心掛けましょう。順調な生育には水分が多く必要なので、梅雨の始まる6月中旬までに行うことが理想的です。そのためは、ポット苗を育てる期間など逆算して考える必要があります。傷みがひどい場合は専門家のアドバイスを仰ぎながら、管理体制や芝生の状態に合わせてバランスの取れた補修計画を立ててください。

株式会社 緑の風景計画
専務取締役 植栽技術部長

よし おか とし や
吉岡 俊哉 さん



あっぱれ!
親方・匠

芝生維持管理の先頭に立って尽力される方々にご登場
いただく「あっぱれ！親方・匠」。
今回は平成28年度に同時に認証された、江東区立浅間
堅川小学校の鴛田慶三さん（親方）と須藤利三郎さん
（匠）をお訪ねしました。



写真右：親方
江東区立浅間堅川小学校
学校地域支援本部コーディネーター 鴛田慶三さん
写真左：匠
江東区立浅間堅川小学校
亀戸9丁目町会副会長 須藤利三郎さん

みんなが喜んでくれるので維持管理にも力が入ります

平成12年4月1日に浅間小学校と堅川小学校が統合されて開校した浅間堅川小学校が、校庭の一部を芝生化したのは3年前。その当初から関わっていたのが親方の鴛田慶三さんと匠の須藤利三郎さんです。お二人は町会の会長・副会長でもあり、その絶妙なコンビネーションで町会の様々な活動を盛り上げていらっしゃいます。芝生の維持管理についても、学校側だけではなかなか大変なのではということで「ボランティアとして町会で芝刈りをやりましょう」と申し入れたそうです。先生方のお話によると、芝生化して以来、子供たちは砂場などよりも芝生の上で遊ぶ方が多いということです。そのことについてお尋ねすると、「気持ち良いんでしょうね、芝生の上は。中休みや放課後に小さい子供たちが芝生の上に寝そべっているそうで、ほほえましいです。みんなが喜んでくれているので、こちらもうれしいがありますよ。」とおっしゃっていました。



校庭芝生の親方・匠とは？

東京都教育委員会は、校庭芝生の維持管理に継続的に取り組み、多大な貢献をされた方で、体制の構築や取りまとめに尽力された方を「親方」、技術的な指導に尽力された方を「匠」として認証しています。



親方が率先して動くので他のメンバーも自ずとやる気に

須藤さんによると、年長の鴛田さんが率先して動かれるので他のメンバーも自然に後をついて行くとのこと。芝生の維持管理は、週1回必ず行っている芝刈りがメインで、メンバーは4～5名。手押しの芝刈り機を使って和気あいあいとやっているそうです。匠としての感想をお聞きすると「最初の頃比べると、芝の根が随分脇に伸びてきたんです。土になじんできたということですかね。特別なことはしていないけど、だんだん状態も良くなってきたという風に感じています。」と教えてくださいました。

学校で色々なお手伝いをされているので、町中で子供と会ってもお互い声を掛け合うことがよくあるそうです。「地域の行事を学校を借りてやることも多いし、地域と学校がお互いに助け合って信頼関係を築いていくということが大事なんじゃないかな」という鴛田さんの言葉からは、芝生を通して生まれた地域と学校のとても良い関係が見えてきました。

東京都教育委員会 [緑の学び舎づくり事業]

東京都新宿区西新宿二丁目8番1号 〒163-8001 都庁第一本庁舎北側 40階
東京都教育庁地域教育支援部義務教育課
TEL (03) 5388-3567 FAX (03) 5388-1734
東京都教育委員会印刷物登録 平成29年度 第191号



古紙パルプ配合率70%再生紙を使用

